

滋賀県社会福祉学会 第42回大会 学会シンポジウム（えにしフォーラム）

この社会を共に生きる

～コロナ禍を経て考える今とこれから～

コロナ禍の3年間を経て、今改めて3年間で起きたこと、影響を受けたこと等（生活困窮、子どもの成長、人との関係性、自死等）を振り返りながら、これからの歩みに向けて、私たちが大切にしていきたいことを共に考える。

令和6年2月22日(木) 13:40～16:10

滋賀県立長寿社会福祉センター（草津市笠山七丁目8-138）

基調講演

奥田 知志（おくだともし）さん



NPO法人抱樸理事長、東八幡キリスト教会牧師

1963年生まれ。関西学院神学部修士課程、西南学院大学神学部専攻科をそれぞれ卒業。九州大学大学院博士課程後期単位取得。

1990年、東八幡キリスト教会牧師として赴任。同時に、学生時代から始めた「ホームレス支援」に北九州でも参加。事務局長等を経て、北九州ホームレス支援機構（現抱樸）の理事長に就任。これまでに3700人(2022年12月現在)以上のホームレスの人々の自立を支援。

パネルディスカッション

パネリスト

奥田 知志（おくだともし）さん

浅井 大介（あさいだいすけ）さん あかい家のこどもクリニック 院長

小児科専門医、滋賀県小児科医会理事。2018年あさいこどもクリニック（現あかい家のこどもクリニック）開院。「お母さん科」として母の心と身体を支えること、不登校児を元気にすることがモットー。

中西 知史（なかにしさとし）さん 社福）東近江市社会福祉協議会 地域福祉課 係長

コロナ禍に特例貸付や家計改善などの生活困窮者支援を経験。社協ワーカーとして孤立せず心豊かに暮らせる地域づくりを推進中！

コーディネーター

山田 容（やまだよう）さん 龍谷大学社会学部現代福祉学科 教授

同志社大学大学院社会福祉学専攻修了。民間企業、短大講師等を経て2006年より現職。

※参加費（資料代）は、午前中の自由研究発表・実践報告を含みます。
※駐車場のスペースには限りがあります。できる限り公共交通機関の利用をお願いします。

[問い合わせ]

滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

滋賀県社会福祉研修センター えにしフォーラム担当

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号

電話 077-567-3927

ホームページ <http://www.shigashakyo.jp>

[参加費（資料代）] ※当日現金

- ・一般参加者・発表参加者 1,000円
- ・大学・短大・専門学校等学生 無料
- ・高校生以下 無料

[申し込み]

Googleフォームにてお願いします。

<https://forms.gle/om3MXhMyLQByj6G1A>



滋賀県社会福祉学会 第42回大会 開催案内

自由研究発表・実践報告／学会シンポジウム(えにしフォーラム)

- 開催日 令和6年(2024年)2月22日(木)
9:30~16:30(9:00受付)
- 会場 滋賀県立長寿社会福祉センター
(草津市笠山七丁目8番138号)
- 定員 300名

大会テーマ

「この社会を共に生きる

～コロナ禍を経て考える今とこれから～」

主催 滋賀県社会福祉学会

(事務局/滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会)

滋賀県社会福祉学会 第42回大会 開催のご案内

大会テーマ

「この社会を共に生きる ～コロナ禍を経て考える今とこれから～」

1 趣 旨

滋賀県社会福祉学会は、昭和58年よりスタートし、県内の様々な分野の方々に参画いただきながら、滋賀ならではの社会福祉の実践や不断(普段)の研究を共有し学び続ける場として創り上げてきました。

滋賀ならではの福祉の価値を生み出してきた“滋賀の福祉人”の現場力を共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へつなげる場として開催します。

なお、第40回から、未来へとつながる現場での“実践”を、より多くの方に知っていただくことを目的として、「研究発表」に加え、「実践報告」の場も設けています。

2 主 催

滋賀県社会福祉学会(事務局:滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会)

3 日 時

令和6年(2024年)2月22日(木) 9:30~16:30(9:00受付)

4 会 場

滋賀県立長寿社会福祉センター (滋賀県草津市笠山七丁目8番138号)

5 日 程

9:00~9:30	9:30~9:40	9:40~9:45	9:45~12:40	12:40~13:40	13:40~16:10	16:10~16:30
受 付	開会式	オリエンテーション (各分科会)	自由研究発表 実践報告	昼食休憩	シンポジウム	閉会式 (奨励賞発表)

※分科会により終了時間が異なります。

6 参加対象

社会福祉従事者、医療・保健関係者、教育関係者、SDGs・社会貢献に関心のある企業・団体関係者、ボランティア、地域福祉活動実践者、学生、その他福祉に関心のある方

7 参加費(資料冊子代)

一般参加者・発表参加者 1,000円
大学・短大・専門学校等学生、高校生以下 無 料

8 定員

300名

9 申込方法

・事前申込制です。参加申込は、以下のいずれかの方法でお願いします。

- ①右記申込フォーム(二次元コード)よりお申込みください。
- ②滋賀県社協のホームページ (<http://www.shigashakyo.jp/>)から申込書をダウンロードいただき、メールで「shiga-gakkai@shigashakyo.jp」あてに送付してください。
- ③別紙「一般参加申込書」に必要事項をご記入のうえ(FAX077-567-5160)に送信してください。



▲申込フォーム

10 参加申込締切

令和6年(2023年)2月15日(木)

※但し、定員(300名)に満たない場合は、締切日を越えても受け付けますので、お問い合わせください。

11 手話通訳等

<午前プログラム>

自由研究発表・実践報告の時間帯(分科会)において、手話通訳、要約筆記等をご希望の場合は、申込み時にその旨をご記入ください。

<午後プログラム>

学会シンポジウム(えにしフォーラム)については、手話通訳、要約筆記を配置いたします。

12 昼食

各自でご用意ください。

- ・この「プログラム」や当日配布する「学会要旨集」をご覧のうえ、各自が聞きたいと思う発表に自由に参加することができます。
- ・分科会間の移動は自由です。ただし、発表中の移動はご遠慮ください。

自由研究発表・実践報告 (9:45~12:40)

自由研究発表は、社会福祉関係者が日頃から行っている活動や他に先駆けて実施している取り組みなど実践を通して得た発見や示唆を発表し、関係者みんなで学び・励まし合う貴重な場です。

この場で発表・検討されたことがお互いの活動意欲と実践を高め、滋賀の社会福祉向上につながればと思います。なお、本年度も、未来へとつながる現場での“実践”を、より多くの方に知っていただくことを目的として、実践のご報告もいただきます。

1) 発表・報告時間 1題につき、発表・報告15分 質疑応答8分 計23分

※各発表・報告の間には、インターバルを2分設けさせていただきます。

2) 自由研究発表・実践報告(分科会)分野及び題数 45題

分科会	分 野	題 数
分科会1	高齢者福祉①／地域福祉①	6題
分科会2	高齢者福祉②／地域福祉②	7題
分科会3	地域福祉③	6題
分科会4	防災①／障害者福祉①	7題
分科会5	障害者福祉②／防災②	7題
分科会6	子ども・若者	6題
分科会7	包括ケア／困窮者支援／権利擁護	6題

※分科会により終了時間が異なりますのでご注意ください。

分科会の詳細は5～6ページに掲載しています。

3) 滋賀県社会福祉学会 奨励賞

自由研究発表の中から「滋賀県社会福祉学会奨励賞」を選び、研究を奨励します。

また、奨励賞に選ばれた発表は、研究誌『滋賀社会福祉研究』（令和6年度発行予定）に研究レポートを掲載し、広く公表します。

4) 個人情報の保護

発表のなかには、実際の事例等を取り上げたものが多くあります。事例は発表者が自らの研究成果を披露し、討議することで、参加者と共に研鑽を図ろうという意味で提供されるものです。発表者および参加者は、法令等に基づき、個人情報を保護してください。

学会シンポジウム(えにしフォーラム) (13:40~16:10)

大会テーマ 「この社会を共に生きる

～コロナ禍を経て考える今とこれから～

コロナ禍の3年間を経て、今改めて3年間で起きたこと、影響を受けたこと等(生活困窮、子どもの成長、人との関係性、自死等)を振り返りながら、これからの歩みに向けて、私たちが大切にしていきたいことを共に考える場として開催します。

基調講演

奥田 知志さん NPO法人抱樸 理事長、東八幡キリスト教会 牧師

1963年生まれ。関西学院神学部修士課程、西南学院大学神学部専攻科をそれぞれ卒業。

九州大学大学院博士課程後期単位取得。1990年、東八幡キリスト教会牧師として赴任。同時に、学生時代から始めた「ホームレス支援」に北九州でも参加。事務局長等を経て、北九州ホームレス支援機構(現 抱樸)の理事長に就任。これまでに3700人(2022年12月現在)以上のホームレスの人々の自立を支援。その他、共生地域創造財団代表理事、全国居住支援法人協議会共同代表、国の審議会等の役職も歴任。第19回糸賀一雄記念賞受賞など多数の表彰を受ける。NHKのドキュメンタリー番組「プロフェッショナル仕事の流儀」にも2度取り上げられ、著作も多数と広範囲に活動を広げている。

著書:「『逃げおくれた』伴走者」(本の種出版)、「助けてと言える国へ」(茂木健一郎氏共著・集英社新書)、「ユダよ、帰れ」(新教出版社)、「伴走型支援」(有斐閣)等



コーディネーター

山田 容さん 龍谷大学社会学部現代福祉学科 教授

1961年広島県生まれ。同志社大学文学部大学院社会学専攻修了。

民間企業、短大等を経て2006年より龍谷大学。

専門分野:ソーシャルワーク、児童虐待対応

滋賀県内の複数市町で要保護児童対策協議会に関わりつつ、当事者だけでなく支援者への支援について、アセスメントのあり方について検討している



パネリスト

浅井 大介さん 医療法人杏華会 理事長、あかい家のこどもクリニック 院長

中学・高校と受験に落ち続け、目的・目標もなく高校3年生まで過ごす。シュバイツァーの海外医療活動に憧れて医師を志し、27歳で徳島大学医学部に入学。2018年に滋賀県大津市で小児科クリニックを開業し、「お母さん科」として看護師・保育士・助産師・心理師・作業療法士などの多職種でお母さんを支えることを重視している。

「苦しい時に助けてもらった」経験が財産であり、不登校の子たちには、「学校に行きにくいことは悪いことではない」ということを伝えている。



中西 知史さん 社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会 地域福祉課 係長

2006年に『社会福祉法人東近江市社会福祉協議会』に入職。地域福祉活動計画、子ども学習・生活支援事業、生活支援サポーターの養成、見守り活動の推進、災害支援、地域福祉権利擁護事業などの担当を歴任。

コロナ禍では、地域福祉課で人と人のつながりの継続や出会わなくても見守り合える地域活動の展開に苦慮。その後、相談支援課に異動し、特例貸付や家計改善などの生活困窮者支援を経験する。

社協ワーカーとして、誰もが孤立してもつながり直すことができ、くらしを豊かにできるチャンスが地域に溢れ、人が人をつなげ合うことが運動となり、「文化」として根付いていくことを目指している。



閉会式 (16:10~16:30)

<p>第4発表 (11:00～11:25)</p>	<p>【実践報告】 (高齢者福祉) 高齢化率52.2%のA地域におけるフレイル予防の取り組み</p> <p>【報告者】 特定非営利活動法人地域で創る土曜日夢の学習 小倉 千三枝、橋本 治美</p>	<p>【実践報告】 (高齢者福祉) 「抱え上げない介護」に 取り組んで ~つまぐい かないことを繰り返しな がら~</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 華頂会 特別養護老人ホーム 福寿荘 榎原 健人</p>	<p>【研究発表】 (地域福祉) 在宅化を進める地域づ くり ~訪問介護時の 駐車場問題から見て くる地域理解の必要性</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 草津市 社会福祉協議会 伊藤 美紗都</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) ノーリフトケア「抱え上 げない介護」の取り組 み</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 びわこ 学園 知的障害児者 地域生活支援センター さくらばはつ 堀尾 成史</p>	<p>【研究発表】 (障害児者、福祉) 障害者の口腔内状況 の変化について ~約 25年前と比較しての一 考察~</p> <p>【発表者】 甲賀健康福祉事務所 小幡 鈴佳</p>	<p>【実践報告】 (子ども、若者) 滋賀県の社会的養護 における2012年~ 2022年の自立支援研 究のあゆみ</p> <p>【報告者】 滋賀県児童福祉入所施 設協議会 調査研究部 会 堺 友美、深田 順子</p>	<p>【実践報告】 (包括) 「みんなち@野洲北中 園 ~みんなまでまづく り~」 ~圏域包括ケア 会議及び第2層協議体 合同開催の取組から~</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 野洲市 社会福祉協議会 富田 由紀子</p>
<p>第5発表 (11:25～11:50)</p>	<p>【実践報告】 (高齢者福祉) 働きやすい職場づくり ~ミーティングの重要 性~</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 青祥会 介護老人保健施設 坂 田メデイケアセンター 通所リハビリテーショ ン 中川 拓哉</p>	<p>【実践報告】 (高齢者福祉) コロナウイルス感染症 が与えた影響と家族と のつながり</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 誠光福祉 社会 特別養護老人ホ ム 東森 一穂 えんゆつこの郷</p>	<p>【報告者】 Opull 高田 優</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) 単独型短期入所事業所 「西の湖自立の家」のそ の後のとらえ方 ~日中 一時支援事業終了後に 実施する宿泊体験活動~</p> <p>【報告者】 特定非営利活動法人 とまり木 村井 竜雄</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) ~「共に」という「ピア」 ~ 重症心身障害者へ のピアカウンセリング</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 びわこ 学園 重症心身障害者 支援施設えがお 中川 渉斗</p>	<p>【実践報告】 (子ども、若者) 「夢サポート」の実践 今後の展望について</p> <p>【報告者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日夢の 学習 岡川 一英</p>	<p>【実践報告】 (困窮) 市町社協との協働によ るコロナ特別貸付利用 者へのフォローアップ 支援について</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 滋賀県 社会福祉協議会 濱谷 香</p>
<p>第6発表 (11:50～12:15)</p>	<p>【実践報告】 (地域福祉) 誰もが笑顔になれる福 祉の町づくりを目指し た人が集まる居場所つ くり</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 心暖まる 社会 特別養護老人ホ ム サニーブレイス彦根 阿藤 久美子</p>	<p>【実践報告】 (高齢者福祉) ノーリフトインゲケアの 導入への取り組み そ のための第一歩</p> <p>【報告者】 社会医療法人 誠光会 草 津ケアセンター 関田 慎吾、串山 楓</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) 支援で気づけたア プローチの重要性</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 甲賀市 社会福祉協議会 ティ サービスセンターすこ やか荘 前野 寛子、鳥元 剛</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) 支援で気づけたア プローチの重要性</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 びわこ 学園 重症心身障害者 支援施設えがお 中川 渉斗</p>	<p>【実践報告】 (子ども、若者) 誕生!びわこリトルベ ビーハンドブック ~「并未熟児」から「#ひ とりじやない」~</p> <p>【報告者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日夢の 学習 岡川 一英</p>	<p>【実践報告】 (権利擁護) 経験や知識を生かした 多様な地域活動 ~住 民によりよい、仲間によ りよい、地域によりそ つて~</p> <p>【報告者】 特定非営利活動法人 まちの相談室よりよい 高田 佐介</p>	<p>【実践報告】 (子ども、若者) 滋賀県の社会的養護 における2012年~ 2022年の自立支援研 究のあゆみ</p> <p>【報告者】 滋賀県児童福祉入所施 設協議会 調査研究部 会 堺 友美、深田 順子</p>
<p>第7発表 (12:15～12:40)</p>	<p>【実践報告】 (地域福祉) タンコセラピーを活用 しての社会貢献、地域 福祉の推進 ~まちの 皆が集うことの実現~</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 志賀福 祉会 特別養護老人ホ ム 真野しようぶ苑 星野 美佐江</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) ITを用いた利用者の QOL向上 ~コロナ禍 で生まれた新たな楽し み~</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 瑠璃光 社会 障がい者支援施設 るりこう園 生活支援課 水上 佳之</p>	<p>【実践報告】 (防災) 法人のBCPの取組み</p> <p>【報告者】 長浜米原しようがい者 自立支援協議会 社会 資源・環境部会 河井 孝典</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) ITを用いた利用者の QOL向上 ~コロナ禍 で生まれた新たな楽し み~</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 瑠璃光 社会 障がい者支援施設 るりこう園 生活支援課 水上 佳之</p>	<p>【実践報告】 (障害者福祉) ITを用いた利用者の QOL向上 ~コロナ禍 で生まれた新たな楽し み~</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 瑠璃光 社会 障がい者支援施設 るりこう園 生活支援課 水上 佳之</p>	<p>【実践報告】 (子ども、若者) 誕生!びわこリトルベ ビーハンドブック ~「并未熟児」から「#ひ とりじやない」~</p> <p>【報告者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日夢の 学習 岡川 一英</p>	<p>【実践報告】 (権利擁護) 経験や知識を生かした 多様な地域活動 ~住 民によりよい、仲間によ りよい、地域によりそ つて~</p> <p>【報告者】 特定非営利活動法人 まちの相談室よりよい 高田 佐介</p>

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類	プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円			
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額	6,500円			
	手術 保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償		
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)			
年間保険料		350円	500円	550円	

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約束手続費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJJ2-12223より抜粋して作成)

滋賀県社会福祉学会事務局

滋賀の縁創造実践センター

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号 県立長寿社会福祉センター内

電話: 077-567-3924 FAX: 077-567-5160

e-mail: shiga-gakkai@shigashakyo.jp

滋賀県社会福祉学会第 42 回大会 一般参加申込書(申込期限 2/15)

申込日【令和 年 月 日】

参加方法 (〇で囲んでください)	午前のみ ・ 午後のみ ・ 全日		
所属・学校名			
E-Mail			
電話番号		FAX番号	

ふりがな 参加者氏名	役職名・学年	手話通訳 希望の有無	備考
(記入例)しゃきょう しがこ 社協 しが子	生活支援員	有・無	
		有・無	
		有・無	
		有・無	
		有・無	
		有・無	

*所属単位でお申込みください。申込用紙が不足する場合は、コピーしてお使いください。

*本書に記載された個人情報は滋賀県社会福祉学会運営の目的のみに使用します。

*お申込みは、下記申込フォーム(2次元コード)よりお申し込みいただくか、滋賀県社協のホームページ
(<http://www.shigashakyo.jp/>)から申込書をダウンロードいただき、下記申込先にご送付ください。)

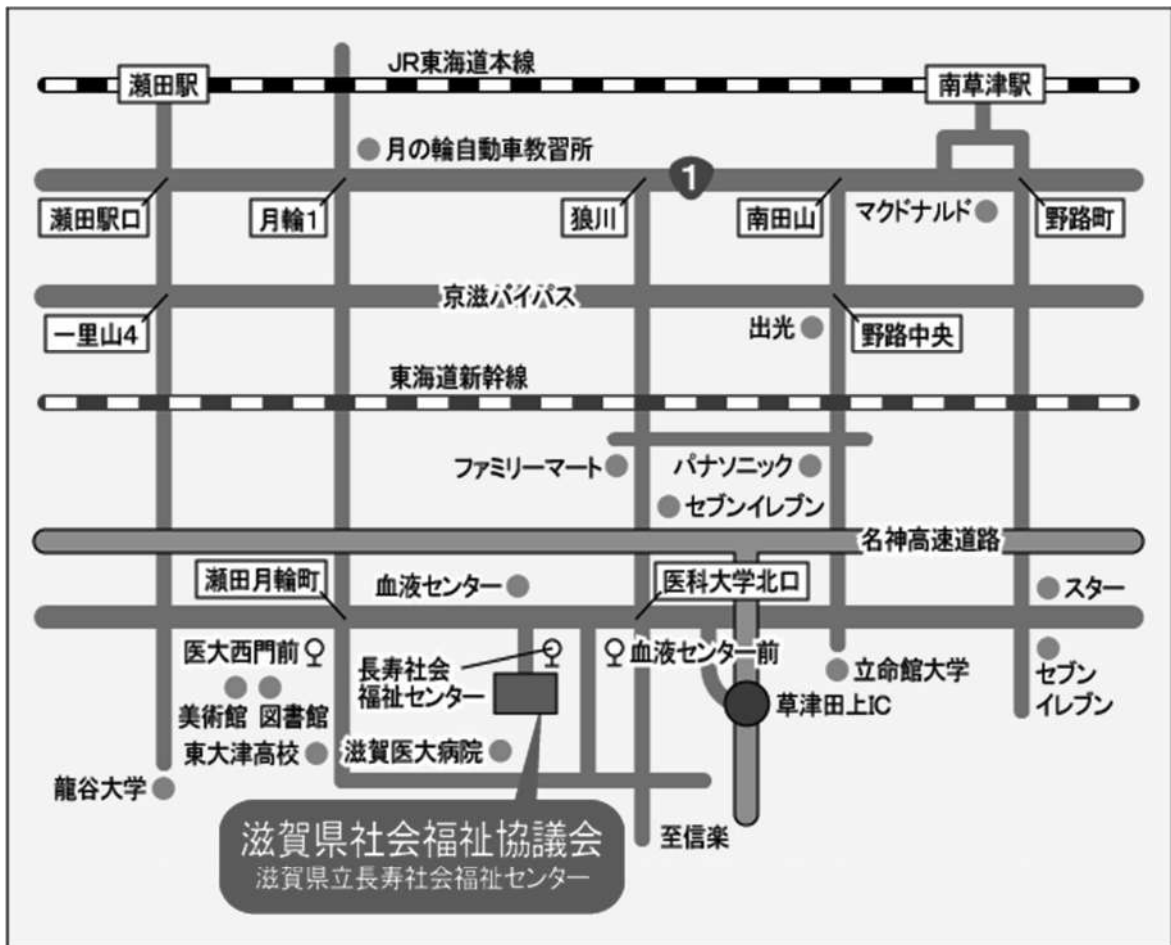
【申込先】

E-Mail: shiga-gakkai@shigashakyo.jp / FAX: 077-567-5160

※申込フォームからのお申込みはおひとり様ずつとなります→



【会場案内】



●JR 瀬田駅から

帝産バス「長寿社会福祉センター行」または「滋賀医大行」
(所要時間約15分)

●JR 南草津駅から

近江バス「長寿社会福祉センター行」、または帝産バス「草津養護学校行」
(所要時間約20分)

●新名神高速道路草津田上 IC から、所要時間約5分

※駐車場のスペースには限りがありますので、できる限り公共交通機関の利用をお願いします。

滋賀県社会福祉学会事務局

滋賀の縁創造実践センター

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内

電話:077-567-3924 FAX:077-567-5160

E-Mail:shiga-gakkai@shigashakyo.jp